

平成 27 年度 第 3 回 羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事録

日 時	平成 27 年 11 月 29 日 (日) 13:00~15:00
場 所	羽曳野市役所別館 3 階 会議室
出席者	<p>会 長：吉川 耕司 (大阪産業大学人間環境学部教授)</p> <p>副会長：黒川 健三</p> <p>第 1 号委員 (産業関係)：柗元 政美、山下 正行 (欠席)</p> <p>第 1 号委員 (教育関係)：鎌谷 裕子、黒川 通典、鶴谷 昌也</p> <p>第 1 号委員 (金融関係)：坂本 浩之、政野 智昭、蓑毛 靖守</p> <p>第 1 号委員 (労働関係)：油谷 孝行</p> <p>第 2 号委員 (市民代表)：中川 哲男、西 聖子</p> <p>第 3 号委員 (市議会議員)：金銅 宏親、上藪 弘治</p> <p>事務局 羽曳野市…白形理事、南口課長、道旗課長補佐 菅原主幹、升本主幹、内本主幹 ランドブレイン (LB) …山北、松本、甲斐</p>
次 第	<p>(1) 開会</p> <p>(2) 議事 ○羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (骨子案) について</p> <p>(3) その他</p> <p>(4) 閉会</p>
配布資料	<p>(資料) 羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (骨子案)</p> <p>(資料) 総合戦略の柱ごとの重点項目の記載イメージ (案)</p> <p>(参考資料) 委員の意見・提案</p>
<p>■議事概要</p> <p>(1) 開会</p> <p>事 務 局：1 名の委員は公務で多少遅れると聞いている。それ以外の方はお揃いなので、ただいまより平成 27 年度第 3 回「まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」を開催したい。まず開会にあたり、座長の吉川先生からご挨拶をお願いします。</p> <p>座 長：みなさん、こんにちは。毎回のことだが、休日にもかかわらずご出席いただき感謝する。この推進会議も今回で 3 回目ということで、議論によってどうなるかわからないが、4 回くらいを目処にと考えておられるので、いよいよ佳境に入ってきた。なかなかつかみどころのない部分がある会議にはなってしまうが、皆さんのいいアイデアをだしてもらって、うまく羽曳野市さんのまち・ひと・しごと創生総合戦略を作り上げることができるように、互いに頑張りたいと思う。委員の皆さまのご協力をいただきたい。</p> <p>事 務 局：続いて議事に入るが、その前に 1 点の連絡。委員で、近鉄古市駅長の安田利貞様が都合により交代され、今回より新しく柗元政美様が委員になられた。一言挨拶をお願いします。</p> <p>柗元委員：みなさんこんにちは。11 月 21 日付けて社の人事異動があり、安田に変わり大和八木駅から古市駅長を命ぜられた。よろしくお願ひ申し上げます。本年の 4 月 1 日付けで初めて駅長</p>	

の拝命を受け、早くも2回目の転勤で私自身も非常にびっくりしているが、住民の方々、地域の方々としっかりコミュニケーションをとりながらまちづくりに協力していけたらと考えているのでよろしく願います。

### (3) 議事

事務局：では、これより議事に入る。進行については毎回のとおりに座長に願います。

座長：それでは議事に入りたいと思う。本日の議題はお手元の次第にあるとおりに「羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）について」総合戦略の柱と重点項目となっている。議事はこれひとつであるが、今回は骨子案がホッチキス留めであるが冊子ができてきた。前回までは落としどころがわからないイメージがあったと思うが、少しみなさんもイメージが固まってきたと思う。というのは要するに市長にこの総合戦略の答申を行うというのが、我々のタスクだと改めて認識いただきたいと思う。これは事務局の思いの部分が入っているが、委員においては事務局から出てきた案について、まずは全体を見通して、前半は基本的な方向や具体的な取組み、戦略は基本目標が3つあるので、これでいいのか確認いただきたいのが1点。それから事務局の思いとしては、様々な分野のメンバーが集まっているので、特に10頁以降の戦略の3つの柱について具体的な内容のアイデアを出してほしいというのがありと私は認識している。もうすでにこれまでの委員のご意見は整理した形で、10頁、11頁、12頁の太枠の中に赤字で項目だけではあるが掲載していると聞いている。第2のタスクとしては、今一度この赤字の部分について、もっとアイデアがないか、まとめられるのではないか、不要ではないか等議論していければと思う。あまり分けても意味はないと思うが、今言った2つで、前半に冊子としての内容の確認をし、後半でこの赤字の部分について議論できたらと思う。事務局にも考えがあると思うので、もっと違う方法があればご指摘をもらうとして、まずは骨子案について事務局から説明を願います。

《（資料）羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）～P9について事務局より説明》

座長：では、説明をいただいたので質問などないか。4,5ページのグラフについては修正があることを申し添える。全体的な骨子案についていくつかご指摘等いただきたいがどうか。文章に落とし込むとどうしても作文になってしまうところがあり、いたしかゆしであるが、後半では戦略について議論したいと思うので、前半ではこの3つの戦略の柱でいいのかを議論したい。

上藪委員：第2回の会議でもどういった落としどころにするんだという話があったが、今後の進め方で10頁～12頁の赤字の例について精査していくのか、前のように皆さんの意見をもらっていくのか、整理していかないと前回と同じような議論になるかと思う。再度ご説明いただきたい。

事務局：今のところ9頁までご説明させていただいている状況で、10頁以降については別途ご説明

する予定で考えている。事務局としては1回目、2回目、また参考資料としてつけている、各委員の2回目以降の意見を赤字で落としこんでいるというようなイメージを持っている。後ほどご説明するが、中身に関して細かい事業を少しつけさせてもらっている。これについては委員の皆さんからいただいた意見を反映したものである。その部分が今後柱の中の具体的な項目として、アクションプランとして落とし込みたいと考えている。戦略の中では消えてしまうかもしれないが、その下にあるアクションプランには反映していきたいと事務局としては考えている。今後、本部会議、パブリックコメントも含めて、いただいた意見の中で本部会議において最終的に現戦略を策定するという形になっているが、前回までにいただいた意見も含めて赤字に反映させていただいている。

《（資料）羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）P10～について事務局より説明》

座長：では、後半の戦略の柱について見ていきながら、もし途中で気づけば8頁までの部分についても随時ご意見をいただくということにしたい。引き伸ばすつもりもないが、意見が出にくそうでもあるので、戦略の1から順番にみていくことにしたい。戦略の1で「羽曳野で若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」。市民としてはもっとも関心が高いと思われると思うが、重点項目としては、結婚・妊娠・出産に対するトータルの支援ということで、出会いの場の提供や空き家の提供、不妊治療に関する支援、若者への就業支援などの項目があがっている。しゃべっているのでとめていただければと。次は、子育てに対する支援。ここは集約する可能性があるということだったが、一体的な情報発信、子ども医療費助成の拡充、第3子の保育料の無償化、教育・保育環境整備、赤ちゃんの駅の設定、女性への就労支援、ワークライフバランスの推進、地域における子育て支援の充実とかなり多彩なメニューを考えておられる。これについては西委員だいが意見を出していただいたことがあり、意見の取舍選択はあると思うが。

中川委員：産婦人科の病院は羽曳野市内に3か所、出産できる場所は1か所、藤井寺市は産院が2か所で出産は0、松原市は産院が7か所で出産は2か所ということで、人口的には少ない。他市との連携がということではないのか。

白形理事：今出産できる場所は確か旧の羽曳野病院だけと思う。少ないか多いのか難しい問題だが、民が産婦人科を建てるのか公が建てるのか、出産については羽曳野市だけの問題ではなく、広域的に考えていかないといけない。近隣に産院がある場所があればまかなえるのではないと思う。

座長：事情としてはわかるが、書いておいてもいいのではと個人的に思う。ある意味役所がずっとマターとしてやれるようなことが書いてあり、せっかくまち・ひと・しごとで産官学が集まって何かうまい方向はないかと考えているので。①の妊娠の部分なると思うが、せっかくならばそういうことも取組みましょうと、座長権限で発言しているが書いていいのかなと思う。決して病院を建てるというわけではなく、必要であれば例えば敷地の提供だとか、家賃の補助などでも連携していけると思う。つくれではなく、取組みでもいいと思う。

残念ながら答申をするだけで、戦略策定について最終的に項目を決める権限は我々にはないが、意見として入れといてもいいのではないか。この場では、骨子案に座長権限で入れるということをお願いしたい。

続いて子育ての支援、3番目「子どもたちの学びの支援」。ICT環境整備の推進、子ども達の新たな学びの機会の提供、子ども達の新たな学びに対する支援。大学の先生方にも入っていただいているが、4番目に「大学との連携による子ども支援体制の確立」。子育てから学習までの一体的な支援ということで、これは小さい子と大学の連携というイメージですが、前回の意見ではもう少し大学の地域連携という意見が出ていた気がするが。

事務局：8頁の相互の連携で、大学を含めいろいろしていきたいと記載しているが、大阪府立大学との子育て、特に乳幼児の成長に対する経過の観察であったり、他の大学ともどのように取組んでいけるかわからないが、子どもに関して重要に取組んでいきたいとして書かせてもらっている。

座長：ここは子育てのことなので、下宿のことなどは柱の3になる。

白形理事：子育てに対する支援の中で少しだけ補足説明させていただく。子ども医療費助成の拡充で、現在本市ではこの10月から小学校卒業まで、来年4月からは中学校卒業まで、子ども医療費については無償化がはかれる予定になっている。それから第3子の保育料の無償化の話があるが、平成27年4月から子ども子育て新制度が始まり、幼稚園・保育園ともに所得に応じた保育料になっているが、幼稚園については3歳から小学校4年生の間で第3子については既は無償化、第2子については半額となっている。保育園については0歳から小学校にあがる5歳までのお子さんについて第3子は無償、第2子は半額と、既に今の枠組みではそうなっている。それ以上に拡充をはかれないということであれば別だが、現状はそうなっているので理解をお願いしたい。

座長：シティセールスではないが、この中で羽曳野市特有のニュースソースになるような事柄はあるのか。その他はアイデアで、まだしてないこともあると思うが。

白形理事：赤ちゃんの駅という名称では羽曳野市はまだ取組んでないが、基本的にはホームページで公共施設や民間施設でおむつ替えができるとか、そうした情報はホームページでお伝えさせていただいている。

西委員：第3子のこともそうだが、要は保育園の無償が終わったら産めない。市立の無償化が、今財源がいつ終わるかどうかと言われている中で、当てにして産めない。保育園だけでなく、大きくなるまで考えてほしいのが私の意見。そこで、保育園だけでやめないでほしい。保育園が無料というだけでは産めない。3人目産もうと思ったらそれだけでは足りないし、高校の無償化もいつなくなるかわからない。それを当てには産めないの、その後も育てられるように少ないお金でもお願いします、ということ。保育料だけにしないでほしい。

座長：逆に言えば、集約するという話もあったが、書いてしまうとそこまでだが、ちゃんと考えますよということが担保されなければならない。子育てに対する負担の軽減という項目にしておいて、中身を書く時にちゃんとしていればと思う。将来的に永続的に府の仕組みが変わっても担保するというようなことを書いてもらえると、より信頼関係があっているの

ではないか。限定してしまうと難しいところではある。集約したらしたで細かく書けと言われるので大変なんだが。実際の状況を鑑みた内容にしていく必要がある。

白形理事：今の意見は非常に難しいところで、子ども医療費助成は各市町村がそれぞれ市費でどこまで拡充するか取組んでいる内容。第3子の保育料の無償化や第2子の半額については、国の制度設計で実施されているので、国の制度設計がなくなったときに市としてどうするかという話になる。羽曳野市の保育料は国基準よりかなり下げている。そこについては市費を入れている部分で、各市町村で保育料が全然違う。それと高校の無償化の話があったが、それは国ではなく大阪府が事業としてやっていて、大阪府の事業がなくなった時に国なり市がどうするという話が出てくる。現在市が高校無償化の制度設計をしているのではないので、その時の判断になると思う。

座長：保証のしようはないけども、その時の判断を前向きにやるのが羽曳野市だと。他より保育料が安いというのはちゃんとPRされているのか。

事務局：うちが他より安いというPRは行政としては難しい。うちの保育料がこうだというPRはできるが。

座長：事業者でも大学でも銀行でも当然のこと。うちが他より金利が安くしますということは言えないのか。

政野委員：安いということが事実であれば、それはひとつの市の魅力になるので、どこまでセールスするかは問題として、知らしめることが今必要なこと。それで魅力を感じて羽曳野市に住んでもらえたら、それはそれでいいことだと思う。

座長：公的機関がどこまでできるかはわからないが、一体的な情報発信と書いてあるが、もう少し言っていくべきなのでは。若い世代が入ってきてほしいのに、中に入らないとわからない制度をいくら作っても、外から見えなければ最終的な目標である若い世代に定住してもらうことが実現しないのではないか。

事務局：戦略の柱の1の②子育てに対する支援の一体的な情報発信とは別に、8頁の効果的なシティセールスの確立と推進ということで書かせてもらっていて、ここが今言われているところだと思うが、市としての魅力やブランド力をきっちりプロモーションして外に出していくイメージは持っている。それが移住定住に関する分野であれば、優先的にそういうところを入れるか入れないかの議論は入ってくると思っているので、2回目の話でいただいた「市は色々やってるけどPR下手やね」という部分で何らかの形でやっていけないかと、戦略に落とし込んでやっていこうと思っている。なので、今回、保育料を入れたらどうだという意見をいただけたと思っている。

座長：ぜひお願いしたい。また戻るとして戦略の柱1を一通り進めてみたので、戦略の2「羽曳野に新しい人の流れと雇用を創り出す」です。重点項目として①歴史文化や地域資源を活用した観光の振興、観光の振興と情報発信力の強化、各種イベントの開催。

上藪委員：1番の観光は羽曳野市の柱になっていくべきものかと思う。世界遺産文化登録も目標と掲げているのでこの分野は非常に大きい分野だと思う。この赤字部分に細かいことを言うつもりはないが、それプラス時代の変化の中でいろんな機械のツールの発展の下で、僕らが

若い頃は車に乗っても地図を広げていたが、カーナビが出てきて日本中どこでも臆することなく行けるようになった。今、それがなんのツールかという、wi-fi の環境である。東京に行ったらはっきり言ってどこでもつながる。羽曳野に世界中から観光に来てもらえるようになった時には、ぜひ wi-fi の設備の環境を整えておかなければ、英語圏の人が来ても、市民も英語を話せるわけではないので、そういった wi-fi の環境設備が必要。あとで出てくる企業誘致の促進にもつながるが、例えばスターバックスなど無料の wi-fi の環境を入れている。そういうところを誘致で何件か呼ぶだけでも wi-fi の環境はすごく広がってくると思うので、wi-fi の環境の充実を項目の中にいれていただきたい。

事務局：一応メニューの中にはいれないといけないと認識はしている。数年前から wi-fi が付いている自動販売機があって、それを導入することができないかも含めて検討している。今回まち・ひと・しごとに関しては重要なツールとして認識をしているので、アクションプランの中にきちんと落とし込んでいけるように考えていきたい。おっしゃっていただいているように観光の振興と情報発信力の強化というような非常に大きなくくりになっているので、その部分に関して wi-fi の設置であったり、観光マークの充実であったりといろんなものを順次やっていきたいと考えている。もちろんインバウンドに関しても 4ヶ国語が必要であるとか。

座長：wi-fi はほんとにコストパフォーマンス高いというか、呼び込むために投資額は安くはないが、他のことをするよりも効果が高い話だと思う。そういう売りを作っていかないと、市内の駅はどこでも wi-fi がつながりますじゃないけど、そのように思う。あと、古墳は横から見てもという話はいいでしょうか。古墳を上から見える場所はほしい。では、またどこで止めてもらってもいいが、順番に行く。②移住・定住促進 具体的な施策としては、相談窓口の設置と情報の一元化、空き家の利活用、若者や新婚世帯を対象としたお試し居住支援 ③地域資源の発掘・活用による地域産業の再生 企業誘致の促進、起業（創業）に対する支援、地域ブランド化の推進、シェアオフィス等起業者が集まる場の創出 ④地域経済の活性化を担う企業への支援 託児所等の設置の促進・支援、企業等の紹介 ⑤地域農業の活性化 新たな担い手の確保・育成、地産地消の推進、6次産業化の推進、遊休農地の解消 箇条書きしてしまうと当たり前になってくるが。

鶴谷委員：基本的な質問だが、企業誘致の促進とあるが、企業誘致する場所などは羽曳野市で検討されているところはあるのか。

事務局：具体的に現在この土地に企業を誘致するというような場所等はない。外環状線沿いとか大きなところがあるので、そういうところを活用していきながら、大きな企業誘致というのは必要になってくるかもしれないという思いはあるが、こちらとして今回企業誘致の促進と書かせていただいているのは、大きい企業も視野に入れながら、小さい部分を何とかしていくことができないかと。ベンチャー企業であったり、街の中に少しのスペースで何かできる企業を誘致できないかということイメージしている。

座長：具体的方法としては普通のやりかた。

事務局：金融部会でも話題になったが、基本一番効率がいいのは、羽曳野市内にはかなり開発調整

区域があり、一定土地の開発に制限がかかる場所でかなり大きい敷地があるので、その調整区域の制限を外して大きい企業を誘致する、工場を誘致するのは一番効率がいいのではないかという話が活発に議論された。しかし、そこはそこで全体の土地の利用計画があるので、そういったことはできないという一定の回答はさせていただいた。であれば、現在ある多少大きめの空き家であったり、雑居ビルの一角に電話の回線を多数引き込んでコールセンター事業みたいなのを専門に請け負う企業を誘致するとか、いわゆるネットベンチャーといわれるような、最近携帯やスマホのゲームなどの勢いのある企業がたくさんあるので、ネットワークと人手があればある程度の仕事ができるような企業に特化して誘致をしていくのが、市の現状にあっているのではないかという話が若干されている。そういったことから、企業の誘致はベンチャー企業であったり、ネットワークの上で仕事をしているような企業の誘致をさせていただく話である。

座長：大規模な形があって、大学のキャンパスが来るというような話ではなくて、駅近での空き地の活用。当たり前で今更だが、企業の業種によって何が魅力かといえば、物流であればインターに近いところがいいだろうし、ベンチャー系やコールセンター等であれば駅近で人が来やすいところがいいだろうし。企業誘致の促進というと、どうしても包括的になってしまうので、ぜひ個別性を高めていただきたい。

黒川委員：企業誘致については、住居地域との割合。こういうことがしたくてもそれがあつたらできない。先ほどの観光についても、今、羽曳野は情報発信としてスマートフォンやFBで観光課はやっている。食べ物に限ってだが、羽曳野市内のいろんなところを観光課と事業部会が皆さんからのアンケートを基に店舗を回っている。それをFBに載せたりして、ここがおいしいということは観光協会で行っている。実際のところ羽曳野にはこれっていう場所も観光もないので。

座長：どうでしょう、終元委員。この際なので、例えば近鉄に対してうまく広告戦略を言うてくる主体があつて、それを羽曳野市にどうですかというような話があれば。

終元委員：こんなことを言うと元も子もないが、鉄道については安全輸送が最重要だが、地域が盛り上がると思えば商業が活性化されないとしんどいかなと。いろんな店ができると若い人が集まるのではないかと思う。私が通勤している南海電車のひとつの駅に今回イオンが来るが、非常にまちが活性化して、マンションも建ち、人が集まりだしている。やはりそういう商業も必要かと思う。

座長：たぶん鉄道会社さんは結構情報を持っているのでは。駅の乗客数がなぜ増えたか、情報をお持ちなので分析しやすいと思う。ぜひとも内々で事務局に教えてあげてほしい。

養毛委員：ラッピング電車が大和高田から出ていると思うが、深くは考えてないが印象には残る。目立つ電車が走っていて、何とかの街大和高田と5両とも書いている。先ほどのイメージ戦略でないが、やはり目で訴える、耳に訴えるというのはかなりみんなの頭に残る。ちなみにあれば、やはり結構お金は掛かるか。

終元委員：かなり掛かる。奈良の方でも大和路の全部ラッピングしている。阪神電車も乗り入れているが、阪神も宣伝として奈良までラッピングした電車を走らせると。

蓑毛委員：阪神は前から言われていたが、なぜ大和高田がやったのかと思った。それはみんなの頭に  
残ることなので、知名度をあげるというのが絶対必要だと思う。

終元委員：ラッピング電車を走らせる期間にもよるが。

座長：でも、ぜひ。

白形理事：羽曳野市の方でも、近鉄さんをお願いして中吊り広告関係はイベント等いろいろやっている。  
電車のラッピングについても、世界遺産の堺市、藤井寺市、大阪府と話をしている、  
話はあるが、堺市は南海電車、藤井寺、羽曳野市は近鉄南大阪線になるが、堺市も当初から  
そういうことを考えているが、やはりそれなりに高額なので堺市でもなかなか手が出せ  
ない。金額と期間もあるので、いつの時点で有効に活用するかというのは難しいところか  
なと思っている。

座長：何でも広告戦略。民間企業はいつもそうなのかもしれないが、いかにターゲットを考える  
か。例えばここで言うと、大阪市にきた観光客を次の日にうまく来させるような戦略を練  
るのか、全国から発信等でここを目指して来させるようにするのか。それは無理だからこ  
っちの方がターゲットになるだろう、であればどのような媒体にするのか決まってくる。  
うちの大学なども下手だが、役所もなかなか。民間の戦略を勉強してもらわないといけな  
いかなと思う。えらそうなことは言えないが。

とりあえず3番目までいってしまっ、必要があれば戻りたいと思う。戦略の柱3、羽曳  
野でいきいきと安心して暮らせる環境を整える。重点項目及び具体的施策で、①百舌鳥・  
古市古墳群の世界文化遺産登録の推進 世界文化遺産登録の推進、古市古墳群の保存・活  
用、ガイドランス施設等周辺強化・整備 ②交流拠点の形成 峰塚公園・駒ヶ谷西側公園等  
の活用、古市駅周辺ターミナル機能の強化、公共施設や空き家等を活用した交流拠点の創  
出 ④災害に強い、安全・安心な生活環境の整備 耐震・バリアフリー等への支援、地域  
防災・減災・防犯意識の推進と環境整備 ⑤学生の市内居住の促進 遊休不動産の利活用  
による居住の提供 ということろだが、これに関してどうだろうか。

上藪委員：古墳については、西さんの提案の5ページがそのものではないかと思う。

座長：資源の活用ということ。

西委員：要はそれが売りであれば、私たちがディズニーランドに行くのと一緒で、新幹線に乗って  
行くぐらいの魅力がないとだめだと思うので、じゃあどうですかということろ。

黒川委員：ちょっと事務局に聞くが、世界遺産の推薦でこの前やっともずふる応援隊というのができ、  
第1回をしてその時にも言ったが、市民が盛り上がってないというのがひとつ。堺は市民  
が先に盛り上がってやっていたのに、羽曳野はやっと今で、なぜ今頃なのかと。もうひと  
つは、羽曳野地域に入ったときに、ここが百舌鳥・古市古墳群で世界遺産を目指している  
と瞬間的にわかるようにできないかということ。そういうのはどうなのか。いろいろ推進  
や活用と書いているが、その前に進めないといけないこと。陸橋のところを目指していま  
すとか、結局、羽曳野に何があるのか。私がどこか行って、そこが世界遺産を目指してい  
たら横断幕などですぐわかる。そういうのが、各店舗で旗やシール、ポスターを貼ったり  
しているが、それ以外はこれといった目立ったものはないが、どうなのか。



白形理事：今ちょっとはずしているが、基本的には市役所に懸垂幕を年中。今はプレミアム商品券になっているが。東部コミセンとたじはや、羽曳が丘の大きな横断幕、古市の西駐車場にも横断幕、各公共施設の駐車場にもプレートのようなものをつけている。百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録は、基本的には市民の皆様には誇りと愛着をもってもらうためにすすめている。これを観光の手段にしようと市としては考えていない。基本的には古墳群を保存して次代につないでいく、未来永劫残していくことが目標である。ただこの取組をきっかけに羽曳野市を知ってもらって、羽曳野市を活性化していこうというような考えで進めている。

座長：スタンスの取り方が難しい。

白形理事：他の世界遺産というのは、日本では観光地であって、我々は基本的には古墳でお墓である。そういうことをまず意識してもらったうえで、観てもらわなければならないと思う。

座長：わかります。議論していると、観光立国じゃないけど、観光市じゃないとなるのはよくわかるけれども。どうせあの手この手であれば、限定するけれども効果的にやるという。

白形理事：世界文化遺産というネームバリューがかなり大きな話になるので、そこは羽曳野市をPRするチャンスであると。来られた方が羽曳野市はどんな街なんと思ってもらって、羽曳野市のいいところを知ってもらえたらありがたい。

上藪委員：この前雑談で世界文化遺産登録について中川委員と話したが、よその市で、行政の力を借りずに、民間で基金を積み立てしようという動きの遺産もある。石見銀山などは近辺の自動販売機でジュースを買ったとき、そのうちの何円かが石見銀山基金に積み立てられる。イオンのカードを使って石見周辺で買い物をしたらその何%が積み立てられる。保全を考えているのであれば、絶対お金がかかってくる。今回、堺、藤井寺、羽曳野と3市で交付金か補助金かわからないが、どういうパーセンテージになるかわからないが、お金の活用を考えたときに、そうした民間の力を借りての基金の積み立てがいずれ必要になると僕は思うが、その辺はどのようにお考えか。

白形理事：先ほど言った、大阪府、羽曳野市、藤井寺市、堺市の世界遺産本部会議の中でも基金の話も当然あったが、羽曳野市の場合は世界文化遺産についてはまちづくり基金に入れてもらって、それを世界文化遺産に活用するとHPにも、その基金の中で世界文化遺産登録が書かれている。基本的には行政は行政でやらないといけないところはあるし、当然民間の力を借りないと行政だけでできることではない。先ほどもずふる応援隊の話もあったが、それ以前に民間でもいろいろ活動している団体もあるので、以前からそこと連携しながらやっている。本部会議の中では、民間会議に商工会や観光協会にも入ってもらって、そこには近鉄さんとか南海さんとか民間企業も入っている中で、今後どういうことがやっつけられるか議論をしているところ。今後、行政で基本的には登録を目指して手続き的なことをやっているが、今後民間と協力しながら活性化しないといけない。近鉄さんとも去年、阿部野橋の駅で特産品を販売しながら世界遺産を応援するというようなこともしているし、関空やいろんな場所でもパネル展やポスターを貼ってもらったり、先ほど商工会会長から

もあったが、商工会や観光協会を通じてかなりのポスターを配っているところ。そうした面ではいろんな団体や市民と協力しながらできることをやっていかないといけないかなと。市民の皆さんにも、各種イベントで缶バッジをつくったり、年に1回3月くらいにウォーク&クリーンとして古墳をめぐりながら清掃活動をさせてもらっている。今後、市民の皆さんからもっとこういうことしようよというような意見があればいっしょになってやっていけるので、ご提案があればいただきたいと思う。

座長：今まで順番にやってきたが、残りの時間は全体を通して自由に意見をいただきたい。

油谷委員：11頁の中に企業等の紹介という項目があるが、先般管内の7大学のキャリアセンターの方と管内の企業との意見交換を行った。大学のキャリアセンターの方によると、どんな地元の企業があるのかわからないという意見が非常に多かった。キャリアセンターでも訪問されているが、とてもじゃないけど全部訪問できない、羽曳野市の中でもオンリーワンであったり、シェアをたくさんもっている企業はあるので、なんとかこういう場で情報発信できないかと思っている。そういうことによってビジネスチャンスも生まれるし、求人があればハローワークの方にもとできるので、そういう流れができれば、もっと地元企業で就職する学生も増えるのではないかと思っている。もう1点、西委員からご指摘いただいた5頁の中の企業PRの話だが、国で若年者雇用促進法というのが10月にできた。いわゆるホワイト企業に認定マークを与えようというような制度。ただ非常にハードルが高く、羽曳野市の企業にも手を挙げていただけてない。例えばそれに企業の融資があるとか、なんか税金面で優遇があればいいなと思っている。

座長：ぜひ、後半についてはお願いしたい。前半についても、キャリアセンターでも探せない。役所の中では企業課かどこかが集約するとなれば、産業振興が主体となる。各役所が企業の情報を持っているのでは。

事務局：すべて網羅しているわけではない。もちろんシェアの高いところも個人的に知っているところはあるが、行政としてとりまとめて発信しているわけではないので、ひとまず商工会さんと連携しながら、そういった企業をどうやってPRしてけるかこれから考えていきたい。金融部会でも話が出ていて、大学や企業、銀行とマッチングして、意見の交換会であったりビジネスチャンスのマッチングフェアに羽曳野市の企業がいけるような取組みをしている。もちろん、今、羽曳野市にある企業で独自にマッチングに行っているところも多数あるが、そうしたところを一括してこちらから各企業に紹介できれば、商工会でもやっているかもしれないが、そういうところを強化していければと思う。

黒川委員：大学生のインターンシップが、毎年各7社くらい、夏休みに2週間から10日くらい、企業のPRも兼ねてやられている。

座長：思いつきで申し訳ないが、確かにマッチングの仕掛け人として、どこが全方位網羅しているのだろうか。

事務局：全てではないが、企業の情報は市より持っているのは商工会さんやハローワーク。実際にマッチングに関しては、年に1回やっていただいている。それとは別に出ていただく企業を募るのではなく、こういう制度があって、積極的にPRしていこうという取組みができ

ないかと。もちろん市に招き入れてビジネスチャンスをつくっていただいたり、企業に魅力を伝えることで市域にある大学から就職できるような環境があったりとか、いろんな手法があるので、それを整理したうえで発信していく必要がある。ただ、国であったりハローワークであったり、企業の情報を基本的には全て市におろさないという形になっているので、なかなかそこは越えにくいハードルがある。私も労働担当をやっていたので、ハローワークといろいろ話はするが、情報として全ていただくのは難しい状況となっている。少し門戸を広げていただくことができるのであれば、ある一方で進めていきやすい部分はあるかもしれない。

油谷委員：今の地方創生ということで、以前とは情報開示の仕方もだいぶ変わってきているので、市町村からの要望があれば情報もお渡しできるように今はなっている。ハローワークの持っている情報は、求人をお願いしている企業はわりと持っているが、それ以外にもいい企業がたくさんあるので、そういう情報をいかに発信できる仕組みを、こういう場でできたらなと思っているところである。

座長：だからこそ仕掛け人であって、情報がないとできないという話ではなくて、情報は主体のストックであるから、それを全部もらわないとできないのではなく、そこについて仕組みをうまく考えることが大事。この総合戦略自体がそうであって、役所だけでできるのではなく、外の力をどう使うか。マッチングを仕掛けるということこそがポイントで、外の力をうまく使って、新しい人の流れと雇用をつくりだすという話になっていけばと思う。

鎌谷委員：今までも随分いい話を聞かせていただいたと思う。新しい人の流れと雇用をつくりだすという今までの意見にプラスアルファとして、近鉄さんの話にもあったように、やはり駅前開発と、あわせて大型スーパーなりの設置、これが古市、羽曳野に対する新しい人の流れを作るために一番いい案だと思っている。というのは、駅前が整備されてないと、いくらあちこちにできたとしても行けないのが現実。バスの利用も台数が少ないし、その辺が問題。広報の戦略等もあると思うが、その辺はどこの市に行ってもいろんなことを掲げていると議員の方がおっしゃったが、「なんとかのまちへようこそ」というのがあるが、羽曳野市では見ない。いろんなところに横断幕等を掲げているというのがあるかもしれないが、それをあまり目にするのが少ない。私は千早赤阪村から来ているがそう思う。千早赤阪の広報が下手というのがあるかと思うが、今は金剛山をメインに考えているところだが、新しく仕入れた話によると、高野山が1200年の歴史ということで新たにいろんなことをやっていて、南海電車等とコラボしながら産業的につくっているゴマ豆腐が、今回売り出しから5億円を超える収益があったということで、つくっている方々が高級車1台買えるだけのボーナスが出たという最近聞いた。そういうことにも結びつけられるようなことを考えていくと、ここの世界遺産が愛着心を持ってもらうものだけだったら、そういうところに結びつけるような広報は難しいと思う。それを広報にして、プラスアルファでいろんなところで街の活性化もプラスをしながら考えていき、ある程度の産業的に表にだせるようなもの、物産を考えていただきながら、新しい人の流れである雇用の創出を考えていただきたい。うまく話はまとめられないが、そう考えた。

座 長：バスの話など、近鉄さんは耳が痛いかもしれない。もちろん第一義でないとしても、誇り優先だとしても、やれることはやっていきたい。駅前にパンフレットはあるが、古墳マップみたいなものはないのか。大阪狭山市には、駅のところにマップがあり、狭山市のキャラクターが載っていて、住居案内とは別にそれがあり、ぼつと行った人も狭山池があるんだな、散歩でもしてみようかなとなるかと思う。そういうのはよく見ていないだけかもしれないが。

事 務 局：古市駅については、駅の通路を出て東側に有人の観光案内所を運営していて、そちらにマップ等置き、職員も配置しているので、そちらで案内している。あと、モニュメント的な古墳の位置を知らせるような大きな立体的なマップを、今後付けていく予定にはなっている。

西 委 員：私は中高生の娘がいるが、服を買いたい、ご飯食べたい、ママ友とご飯を食べにいく、小さい頃は子どもを連れて散歩したり遊びに行こうというときに古市駅というのはまったく浮かばない。古市に行くことはまずないし、車もどこに停めたらいいかわからないし、何を売っているかわからない。もちろん八尾とか堺のショッピングモールに行くと、近所のお友達と会う、やはりみんながそこに買い物に行っている。もし、例えばコストコと吹田にできたららぼーとが古市にできたら、逆によその市から車で来たりするが、そのためには土地の買い上げなど面倒なことをばかりと思う。この5年10年のスパンで、ターミナルの活性化がどれくらいのがされるのか、何もされないのか聞いてみたい。どういうところまでいくのか。強化されるということはそんなまちになるのか。

事 務 局：仰って頂いているところまではいかないと思う。大きく開発をするということは今すぐの戦略の中に落とし込むことは非常に難しい。ただ、今回古市駅周辺のターミナル機能の強化と書かせていただいた趣旨に関しては、現在、バスのロータリーがあるが、横に市営の駐車場を整備しており、その中にロータリー機能も兼ね備えた駐車場を整備している。市民にはそのロータリーを利用してもらいながら、バスが上手に無理なくロータリーを使ってもらえるように、一方通行であったりできないかと。金融部会でも開発に関して話がありご意見をいただいたが、一方通行にすることによってまず公共交通機関の流れをよくしましょうと。その中で、バスの運行の本数が増えるかもしれない。大学も府立大学や四天王寺大学があるが、今は藤井寺からちょうど藤井寺の郵便局の前を歩いて大学に来ているが、距離的には古市を少し開くことによって非常に近くなるのではないかと考えている。ただ天王寺から準急に乗ってしまうと古市が遠くなるが、天王寺に住んでいる方には急行で20分もかからず古市に来てもらうことができるので、そこからバスを使って移動してもらうことが可能かなという意味合いで、ひとまず書かせてもらっている。いっぺんにやることはできないと思っているので、ここ30、40年間変わってない古市駅に関して、少しでも前進できないかなという思いでこのターミナル強化というのは書かせてもらった。

黒川委員：古市駅は何十年も前に青写真を描いたときにそれが消えてしまった。それが無くなってから難しい。駅前はどこでも表裏があって、羽曳野では西側。開発した時に全体的にぱつとやるのと、個々にちょっとずつやるのではなかなか難しい。やるならスパッとやらないと

できない。私が生きている間は無理と思っている。

事務局：古市駅については、推進会議で早くから話題に出ており、事務局側としても街の発展のキーポイントになるものだと認識はしている。ただ副座長も言ったとおり、私も市役所入って20年経つが、20年前から古市駅前再開発という組織はずっとあった。かなり以前から取組んでいるが、傍目からみても複雑に入り組んだ地権であったり、町並みも相当古いある意味保存すべき場所も多く、多数の人が入り込んでいるといういろいろな要因がある。一番大きいところは用地買収の計画を地域にお示ししても、ご理解を得られる機会がなかったりと、実際ロータリーを作るまでで精一杯だったのではないかと理解している。ただ、だからと言って放っておくわけにもいかないので、こちらとしても十分課題として推進会議で洗い出されたものであるのも、ほっとくわけではないので、表現的に精一杯打ち込めるところでターミナルの強化とした。あとはタイミングとその他要因もからめながら、アクションプランで打ち込めるところは打ち込んでいきたいと考えている。

黒川委員：総合基本計画で古市の話があって、中央から来られるときに、阿倍野駅で切符を買おうと思ったときに羽曳野に行こうとしても羽曳野がない、聞いたら古市だと。そこで既に羽曳野が出てこない、イメージされてない。その話もしたが、近鉄と駅の名前を変えるのにこれぐらいお金がという話も。

鶴谷委員：戦略の柱で、新しい人の流れを作るという部分で、実施どうなのかなというところがある。もし百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産に登録されたら、保全のこともそうだが、まず指定されたら観たいと思うので、知らないので行ってみたいと思ったらそれがひとつの観光の形をつくりあげるの、口コミや紹介されると人は絶対行きたくなる。今エキスポシティが、エキスポランドの跡にできて広報していて、たぶん地元の間はもう少し落ち着いてからでないと行こうと思わないが、絶対人は行ってみたいという気持ちになるので、古市の百舌鳥・古市古墳群も世界遺産に登録されたら、古墳だけでもどんなところか行ってみたいよな、自分の目で見て確かめたいと思うのでその辺も考えていかないといけない。それにプラス、インバウンドの外国人の旅行客が増えているのと。仕事で台湾に行ってきたが、閑空ってすごい外国人の観光客だらけで、朝のフライトで行ったが、日本から来る台湾の飛行機の3分の2が中国人で日本人は3分の1しか乗ってない。それくらい日本で観光して、また外国に飛ぶという外国人観光客が増えている。その辺のところはどうなのかなと。

事務局：古墳めぐりというか、最近自分も街を自転車で回っていてもバックパック背負って個人や集団で歩いている方など、年齢も様々で、まだ世界遺産登録されているわけではないが、基本的にそういう方の母数は増えたという印象がある。羽曳野でも古墳の案内をしてくれるボランティアの団体があり、連絡とると案内してくれる仕組みとまではいかないが、サービスをしてくれている団体もいる。ただ、先ほど話が出たように、多国語に対応しているわけではないので、今後その辺が課題になってくるのかなと認識している。

座長：もう来てもらっているのなら、口コミというのは怖い話で、ネガティブな話がひろがるとよくないので、ぜひ考えてほしい。インバウンド商品としては、古墳グッズとか見たい。

先ほどのゴマ豆腐ではないが。

事務局：古墳ゼリーというものはある。それも民間の方が発案いただいたものがある。羽曳野市と直接関係があるわけではないが、先日ふるさと納税の関係で、物の提案があり、通販で有名な株式会社フェリシモさんが、前方後円墳の形をしたクッションとかお皿、植え込み用のプランターなどの一定数の古墳グッズを作っているという情報提供を受けている。

上藪委員：PRについてだが、youtubeで百舌鳥・古市古墳群を検索すると、藤井寺市の古墳、堺市の古墳が説明も解説も入って出てくる。羽曳野だけない。再生回数を調べると1万件ほどでそれくらいの方が実際見ている。youtubeに映像をアップすることはそんなにお金の掛かることではない。それがわざわざ見に来なくても、自宅のパソコンや携帯、スマートフォンで出来る時代なので進めてほしい。結局露出が広がれば広がるほど、その流れは広がるものだと思うので、せっかくFBも市で作ってもらったし、こうしたインターネットの時代で絶対必要不可欠なツールだと思うのでお願いしたい。

座長：また今日もいろいろアイデアが出たが、なかなかまとめにくいと思うが、まとめるのが目的ではなく、いいところを吸い上げてもらって、決して全てを取り入れる必要もなく、我々も自分の立場をわかったつもりで、思いついたことを言っているのだから、それで取り上げられればいいなと思っている。最後に、戦略の柱を3つに分けると縦割りっぽくなってしまふ。さらに事業で細分化されると、隣の柱の話が見えないようなことになるので、どこかに柱ごとの横断的な連携を図るといふような文言を入れてもらおうと、実際にやる時に職員の方に思い出してもらえたらありがたいかなと思う。戦略1、2、3は互いに関係し切り離せないものだが、どうしても3つに分けるとだんだん縦割りになってしまふところがあるのでお願いしたい。大体はご意見をいただいたので、他にこれだけという意見があれば、よろしいか。では事務局から今後の予定についてご説明いただくことにする。長時間にわたり、有意義な意見をいただき感謝する。あとはうまく事務局で調整してもらい、我々はフィードバックを受けることを期待したい。以上で議事を終了し、事務局にお返しする。

### (3) その他

事務局：スケジュールに関してのご連絡をさせていただく。今回合計4回開かせていただく予定のうち、今日で3回目が終了。こちらとしては1月頃にパブリックコメントを開催する予定で、それ以降2月の初旬、中旬くらいに最終の推進会議を開催したいと考えている。まだ2ヶ月以上先になるので、事前に日程調整は書面で伺いながら決めたい。もちろん今日いただいた意見を含めて、推進本部ならびに関係課長会議等も開いて素案を策定した上で、パブリックコメントとなるので、その資料はパブリックコメントより事前もしくは同時期に各委員に送付し見てもらふ予定で考えている。今日いただいた意見をしっかり反映したものをもう1度見たいとなれば、12月中にもう一度開催することになる。その部分は市の考え方でいいのか、12月に再度開催がいいのか、意見があればいただきたい。

座長：いかがか。もう1度開催がいいか。会議を開かなくても、一度は郵送か何かでフィードバ

ックしてもらえるのか。

事務局：パブリックコメント用の素案が作れた段階で、各委員には送付をさせていただく。

座長：ということであれば、会議自体は4回目2月初旬を待って、素案は個別に確認すること  
よいか。

全委員：了承。

#### (4) 閉会

事務局：これをもって、平成27年度第3回羽曳野市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議  
を終了する。